

NDIS 0604

赤外線サーモグラフィ試験(TT)

新規受験申請時の申請条件・訓練実施記録の作成について

《レベル1・レベル2》

新規受験申請時に必要となる受験申請条件、訓練実施記録の作成についての手順を Step1～6 で説明します。

Step1 新規受験申請の条件である必要な訓練時間を確認してください。

申請を行う条件としてレベルごとに訓練時間が下表のように規定されています。受験したいTTレベル・要求されている訓練時間を確認し、訓練時間を満足させた訓練実施記録が必要です。

| 希望する受験レベル | 必要な訓練時間 | |
|--------------|--------------|-------------|
| TTレベル1を受験したい | 40時間 | |
| TTレベル2を受験したい | TTレベル1 資格保持者 | TTレベル1 非保持者 |
| | 80時間 | 120時間 |

Step2 訓練を受ける方法として次のパターンがあります。

① 協会や公共団体、その他団体の講習会を受ける

赤外線サーモグラフィ試験の訓練（講習会）は当協会でも実施しております。協会 HP の教育活動・講習会のページで日程、詳細を確認して、お問い合わせください。

【日本非破壊検査協会ホームページ／教育活動・講習会】

<http://www.jsndi.jp/education/index1.html>

他協会、団体にて講習会に参加する場合は、その講習会の主催団体にて、**この要求事項にそった訓練実施記録**を発行してもらってください。

② 社内で訓練を受ける 《申請者自身による自己学習は訓練として認めません》

社内訓練とは、社内の訓練者が**訓練シラバス**に基づいて計画的に訓練を実施し、自社で訓練実施記録を作成する場合があります。

③ 他会社の訓練を受ける

他会社の訓練とは、社内に訓練できる技術者がいない場合に、他社の技術者に**訓練シラバス**に基づいた訓練を受ける事が該当します。依頼した訓練者に訓練実施記録を作成してもらってください。

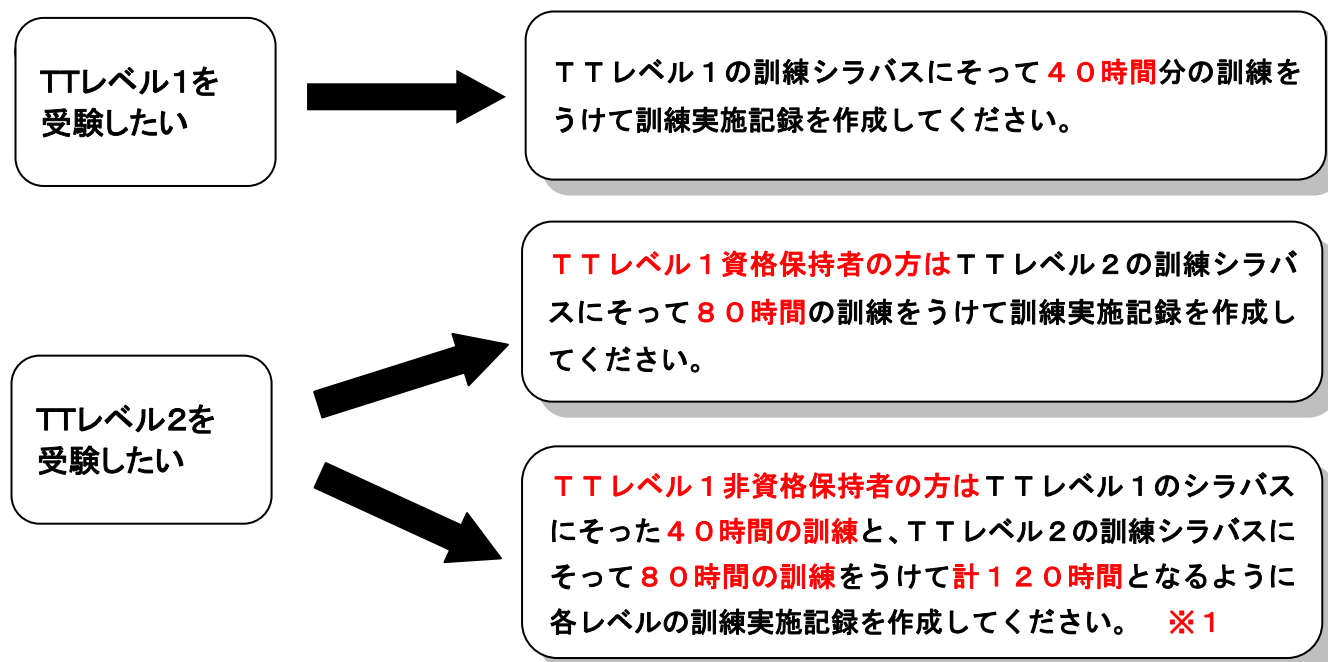
※訓練実施記録の記載例は Page8/12 頁 訓練A（訓練責任者をおいた例）及び Page9/12 頁 訓練B（訓練責任者をおいた例）を参照。

※訓練実施記録用紙、訓練実施記録集計表の用紙は認証事業本部指定の専用の用紙を必ず使ってください。協会 HP の NDIS 0604 赤外線サーモグラフィ試験のページにてダウンロードができます。

Step3 レベルごとの「訓練シラバス」に基づいた訓練を受けてください

TT受験のために受ける訓練は、レベルごとに訓練シラバスが定められており、そのシラバスの内容の訓練を受けてください。**訓練シラバスに記載のない訓練は、要求される訓練時間の対象にはなりませんので**、ご注意ください。シラバスの各項目に規定された「最低限必要な訓練時間」を必ず満足させ、要求された訓練時間を満たすように訓練を受けてください。

※各レベルの訓練シラバスの詳細は、協会 HP の NDIS0604 赤外線サーモグラフィ試験のページにてご案内しております。



※1 TTレベル2は、TTレベル1に要求される訓練が終了していることが前提ですので、直接レベル2を受験する場合は、TTレベル1のシラバスにそった40時間の訓練実施記録と、TTレベル2のシラバスにそった80時間の、合計120時間分の訓練実施記録が必要です。

訓練者について

訓練者は**相応の技量がある事が要求されますので、TTレベル2以上の有資格者がおこなうことが望ましいですが**、有資格者がいない場合（または、レベル1の有資格者しかいない）「訓練責任者」が「訓練者」について**相応の技術・知識があると判断した場合は**、「訓練責任者」を置いて訓練実施記録を作成してください。記入例は訓練A（訓練責任者をおいた例）Page 8/12 頁を参照

レベル2以上の有資格者がおこなう場合の訓練実施記録の記入例は訓練B（訓練責任者をおかない例）Page 9/12 頁を参照して作成してください。

※訓練者………相応の技量がある訓練者

※訓練責任者………訓練者の技量及び申請者が受けたTT訓練について全責任をもてる方

訓練者と訓練責任者の同一人物は認められません。

Step4 訓練実施記録の用意

訓練実施記録は、認証事業本部指定のTT専用の訓練実施記録用紙（TTレベル1用、TTレベル2用）を使い、作成してください。

※記載例は…※

Page8/12 頁 訓練A（訓練責任者をおいた例）を参照

Page9/12 頁 訓練B（訓練責任者をおかない例）を参照

訓練実施記録は、新規受験申請時に必要な添付書類です。申請提出日からさかのぼって5年以内の訓練が有効です。したがって訓練実施記録の中に訓練実施日が5年以上経過したものがあれば、その部分は訓練時間の対象になりません。

訓練実施記録集計表について

同じレベルの訓練を受けて、訓練実施記録が2枚以上になった場合、（例：TTレベル1の訓練を複数の団体や会社で受講したなど）訓練実施記録集計表に訓練実施記録の時間を集計していただき、新規受験申請書、訓練実施記録と共に提出してください。

※記載例は Page7/12 頁 訓練実施記録集計表を利用する を参照※

※訓練実施記録用紙、訓練実施記録集計表の用紙は認証事業本部指定の専用の用紙を必ず使ってください。必要な用紙及び訓練シラバスの詳細は協会 HP の NDIS0604 赤外線サーモグラフィ試験のページの「<C> 訓練」についてのページからダウンロードができます。

<C> 訓練 にてご案内しているもの

- ・ 訓練実施記録 レベル1用 / レベル2 用
- ・ 訓練実施記録集計表 レベル1用 / レベル2 用
- ・ 訓練シラバス レベル1用 / レベル2 用

※試験日程などの詳細、試験合格後の手続についての詳細は、NDIS 0604 赤外線サーモグラフィ試験 認証制度のご案内、資格試験案内をご参照ください。

Step5 受験申請書に訓練実施記録を添付してください

訓練実施記録は Step3 で説明のように5年間使用することが出来ますので、受験申請書に訓練実施記録を添付する際は、次の手順で行い、受験申請書に添付してください。

- (1) 訓練実施記録(原本)をコピーする。(原本は手元に保管してください。)
- (2) コピーした訓練実施記録にボールペン等で訓練を受けた者の署名欄に申請者本人が自筆署名のうえ、押印してください。

訓練実施記録原本を新規受験申請書に間違えて添付して提出した場合、**原本の返却はできません**。次回受験申請をする場合には訓練実施先から取り寄せていただく必要があります。訓練実施先によっては再発行に手数料が発生する場合がありますので、取扱にはご注意ください。

拡大部分

| | |
|---------------|---------|
| NDT方法・レベル | TT-レベル1 |
| 訓練を受けた者の氏名 | 非破壊 新太郎 |
| 訓練を受けた者の署名・押印 | 印 |

- (1) 訓練実施記録原本をコピーする。
(まだ署名・押印欄はこの状態です。)



| | |
|---------------|----------------------|
| NDT方法・レベル | TT-レベル1 |
| 訓練を受けた者の氏名 | 非破壊 新太郎 |
| 訓練を受けた者の署名・押印 | 非破壊 新太郎 非破壊 印 |

- (2) コピーした方の訓練実施記録にボールペン等で「訓練を受けた者の署名・押印」欄に自筆署名、押印をしてください。

赤外線サーモグラフィ試験 レベル1 訓練実施記録

| 訓練内容 | 訓練内項目 | 時間(分) | 訓練実施日(月・日) | 訓練実施場所 | 氏名 | 職名 | 所属 | 訓練者 |
|---------------|---------------|-------|-------------------|-------------|-----|----|-------|-----|
| 基礎中の基礎 | 熱、電圧、電流 | 1.0 | 2015/5/1 | サーモグラフィ検査機関 | 新太郎 | 技師 | 非破壊検査 | 新太郎 |
| | 放射線の基礎 | 2.0 | 2015/5/1 | サーモグラフィ検査機関 | 新太郎 | 技師 | 非破壊検査 | 新太郎 |
| 基礎中の基礎 | 非破壊検査の基礎 | 2.0 | 2015/5/1 | サーモグラフィ検査機関 | 新太郎 | 技師 | 非破壊検査 | 新太郎 |
| | 基礎中の基礎 | 2.0 | 2015/5/1 | サーモグラフィ検査機関 | 新太郎 | 技師 | 非破壊検査 | 新太郎 |
| 熱画像撮影の基礎 | 熱画像撮影の基礎 | 1.0 | 2015/5/1 | サーモグラフィ検査機関 | 新太郎 | 技師 | 非破壊検査 | 新太郎 |
| | 熱画像撮影の基礎 | 1.0 | 2015/5/1 | サーモグラフィ検査機関 | 新太郎 | 技師 | 非破壊検査 | 新太郎 |
| 非破壊検査に関する技術文書 | 非破壊検査に関する技術文書 | 1.5 | 2015/5/1 | サーモグラフィ検査機関 | 新太郎 | 技師 | 非破壊検査 | 新太郎 |
| | 非破壊検査に関する技術文書 | 1.5 | 2015/5/1 | サーモグラフィ検査機関 | 新太郎 | 技師 | 非破壊検査 | 新太郎 |
| 合計 | | 10.0 | 2015/5/1~2015/5/1 | サーモグラフィ検査機関 | 新太郎 | 技師 | 非破壊検査 | 新太郎 |

訓練時間(講習と実技の時間配分)欄
 講習時間 18.0
 実技時間 18.0
 合計 36.0

訓練実施場所
 株式会社 〇〇〇〇〇〇〇〇

訓練者
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇

赤外線サーモグラフィ試験 レベル1 訓練実施記録

| 訓練内容 | 訓練内項目 | 時間(分) | 訓練実施日(月・日) | 訓練実施場所 | 氏名 | 職名 | 所属 | 訓練者 |
|---------------|---------------|-------|-------------------|-------------|-----|----|-------|-----|
| 基礎中の基礎 | 熱、電圧、電流 | 1.0 | 2015/5/1 | サーモグラフィ検査機関 | 新太郎 | 技師 | 非破壊検査 | 新太郎 |
| | 放射線の基礎 | 2.0 | 2015/5/1 | サーモグラフィ検査機関 | 新太郎 | 技師 | 非破壊検査 | 新太郎 |
| 基礎中の基礎 | 非破壊検査の基礎 | 2.0 | 2015/5/1 | サーモグラフィ検査機関 | 新太郎 | 技師 | 非破壊検査 | 新太郎 |
| | 基礎中の基礎 | 2.0 | 2015/5/1 | サーモグラフィ検査機関 | 新太郎 | 技師 | 非破壊検査 | 新太郎 |
| 熱画像撮影の基礎 | 熱画像撮影の基礎 | 1.0 | 2015/5/1 | サーモグラフィ検査機関 | 新太郎 | 技師 | 非破壊検査 | 新太郎 |
| | 熱画像撮影の基礎 | 1.0 | 2015/5/1 | サーモグラフィ検査機関 | 新太郎 | 技師 | 非破壊検査 | 新太郎 |
| 非破壊検査に関する技術文書 | 非破壊検査に関する技術文書 | 1.5 | 2015/5/1 | サーモグラフィ検査機関 | 新太郎 | 技師 | 非破壊検査 | 新太郎 |
| | 非破壊検査に関する技術文書 | 1.5 | 2015/5/1 | サーモグラフィ検査機関 | 新太郎 | 技師 | 非破壊検査 | 新太郎 |
| 合計 | | 10.0 | 2015/5/1~2015/5/1 | サーモグラフィ検査機関 | 新太郎 | 技師 | 非破壊検査 | 新太郎 |

訓練時間(講習と実技の時間配分)欄
 講習時間 18.0
 実技時間 18.0
 合計 36.0

訓練実施場所
 株式会社 〇〇〇〇〇〇〇〇

訓練者
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇

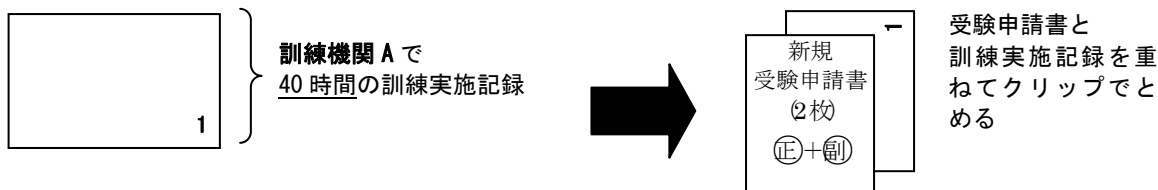
訓練者
 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇

！完成！

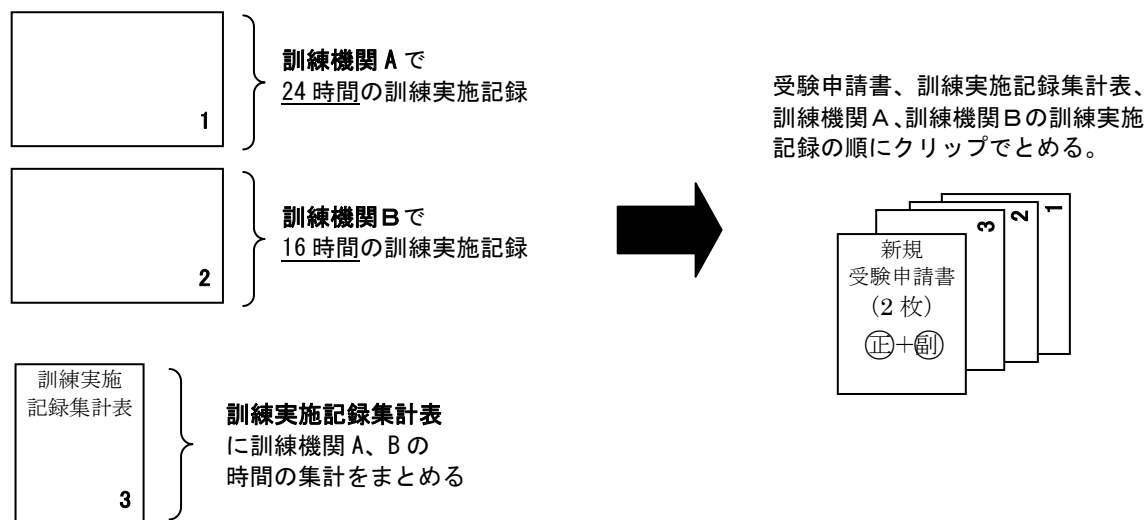
これで受験申請書に添付する為の訓練実施記録ができました。

《新規受験申請と訓練実施記録のまとめ方》

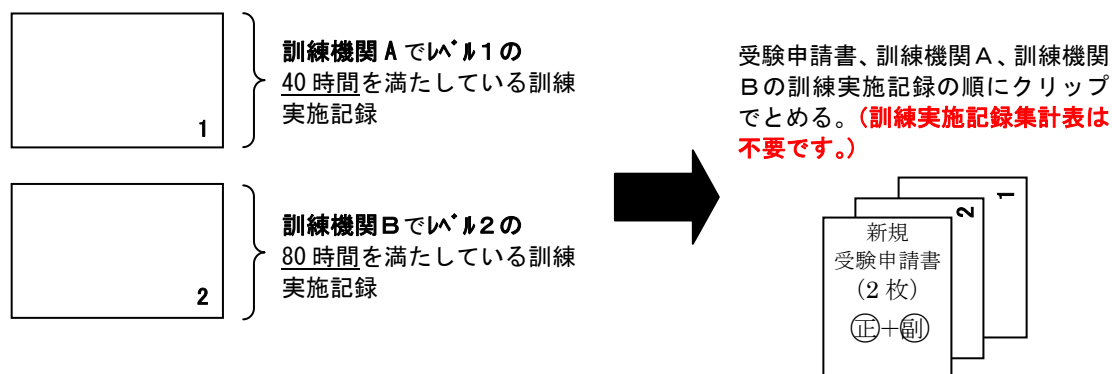
A: 1か所の訓練機関で訓練時間を満足する場合（訓練実施記録が1枚のみの場合）



B: 2か所以上の訓練機関で訓練時間を満足する場合・・・（同じレベルの訓練実施記録が2枚以上ある場合）



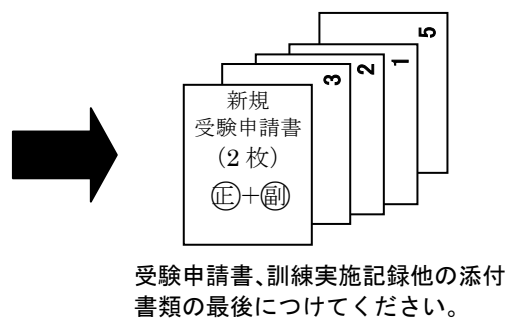
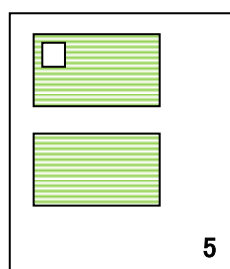
C: TTレベル2を新規受験する場合で、レベル1とレベル2のそれぞれの訓練実施記録で満足する場合



※ TTレベル1 資格所有者が TTレベル2 を受験する場合・・・

A / B / C 共通

(TT2 シラバスの 80 時間
の訓練実施記録が必要です)
TTレベル1の資格証明書の
コピーを添付してください
(両面・白黒コピー可)



TTレベル1の訓練実施記録に代わって、TTレベル1の資格証明書のコピーを添付することも可能です。

Step6 新規受験申請書へ添付した訓練実施記録の訓練内容を入力してください。

新規受験申請書は協会 HP からダウンロードできます。MS Word 上で申請内容を入力できますので、入力方法等の詳細は赤外線サーモグラフィ試験新規受験申請書の入力方法をご確認ください。(受験申請書は①、②、③の3枚をプリントして①、②を提出してください。③は受験申請者本人が保管してください。)

(例) 新規受験申請書に **2013年4月12日から2013年6月21日の間に実施した80時間分以上の訓練実施記録が2枚以上添付されている場合。**

| | | | |
|---|-------------------------------------|---------------------|----------------|
| | | | |
| JNDI 2014年秋期資格試験用 NDIS 0604 赤外線サーモグラフィ試験 新規受験申請書 | | | |
| 受験申請日(西暦) 2014年07月29日 | | | |
| 受験レベル | レベル | NDT方法① | NDT方法② |
| IO | 2 | TT | ** |
| 個人コード | P 01234567 | 性別 | 1. 男性 |
| 勤務先名/フガナ | (株)TTサーモグラフィ検査 | 生年月日(西暦) | 1970年12月09日 |
| 勤務先電話番号 | 03-5609-4014 | 職種 | 01 |
| 受験者氏名/フガナ | 非破壊 新太郎 | 受験者 | 判定 |
| NAME(ローマ字) | HIHAKAI SHINTAROU | 受験者 | 判定 |
| 送付先住所 | 〒136-0071 東京都江東区 亀戸 2丁目25-14 | 送付先名称 | (株)TTサーモグラフィ検査 |
| 所属部署名 | 検査部 管理課 | 受験者名(又は担当者) | 非破壊 新太郎 |
| 〒 | 136-0071 | 郵便番号 | 〒136-0071 |
| 町 | 亀戸 | 都道府県市区郡 | 東京都江東区 |
| 丁目 | 2丁目25-14 | 大字・小字 | 大字・小字 |
| 電話番号 | 03-5609-4014 | FAX番号 | 03-5609-4062 |
| E-mail Address | S-hihakai@ne.jp | | |
| 基礎試験合格番号①(レベル3基礎試験合格者のみ入力) | K ***** | 基礎試験合格有効期限入力(西暦年月日) | 20**** |
| 受験申請した直下位のレベルの認定番号入力 | N 12345678 | | |
| 訓練開始日(西暦) | 2013年04月12日 | 訓練終了日(西暦) | 2013年06月21日 |
| 添付書類枚数 | 3枚 | 合計訓練時間 | 80時間 |
| ●TTレベル1及び2受験者は必ず入力 (訓練先ごとにまとめて入力。2か所以上の訓練先で受講、訓練実施記録が複数枚にわたる場合は訓練実施記録集計表も添付すること) | | | |
| 訓練先名称 | 訓練実施日(西暦年月日) | 延訓練時間 | 書類No. |
| サーモグラフィ検査機関 | 2013年04月12日～2013年04月25日 | 40時間 | 1 |
| 赤外線検査訓練所 | 2013年05月01日～2013年05月02日 | 12時間 | 2 |
| 日本非破壊検査協会 | 2013年06月03日～2013年06月21日 | 28時間 | 3 |
| | 年月日～年月日 | 時間 | |
| | 合計訓練時間 | 80時間 | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 訓練実施記録集計表有り | 添付書類合計枚数 | 4枚 | |
| | 訓練実施記録集計表がある場合はそれも含めた枚数 | | |
| ●TTレベル3受験者のみ入力(該当する欄の□に×を入力して下さい。) <input type="checkbox"/> 個人的学習(その学習に使用した参考書名、発行社名を記載した証明書) <input type="checkbox"/> 研究・論文発表(その発表を行った場(主催団体名、発表会名)とそのタイトルを記載された証明書) <input type="checkbox"/> 書籍・解説等の執筆(その執筆した書籍名、発行社名、タイトル等を記載した証明書) <input type="checkbox"/> 講演会、セミナーなどに参加(主催した団体名と会議名又はセミナー名を記載した証明書) | | | |
| 本受験申請書の記載内容に相違ないことを証明します。 | | | |
| 雇用責任者名 | 非破壊 三郎 | 証明日(西暦) | 2014年07月29日 |
| 勤務先名 | (株)TTサーモグラフィ検査 | | |
| 所属部署・役職 | 検査管理部 係長 | | |
| 勤務先住所 | 〒136-0071 東京都江東区亀戸2丁目25-14 TTビル | | |
| TEL/FAX | TEL: 03-5609-4014 FAX: 03-5609-4042 | | |

それぞれの訓練実施記録の訓練先名称、訓練実施日、延訓練時間を入力してください。

※訓練先名称とは訓練を行った機関や会社名を指します。「〇〇鉄工所内研修所」や「▲▲ビル土木現場」等の訓練実施場所ではありませんのでご注意ください。



拡大部分

●TTレベル1及び2受験者は必ず入力
(訓練先ごとにまとめて入力。2か所以上の訓練先で受講、訓練実施記録が複数枚にわたる場合は訓練実施記録集計表も添付すること)

| 訓練先名称 | 訓練実施日(西暦年月日) | 延訓練時間 | 書類No. |
|---|-------------------------|-------|-------|
| サーモグラフィ検査機関 | 2013年04月12日～2013年04月25日 | 40時間 | 1 |
| 赤外線検査訓練所 | 2013年05月01日～2013年05月02日 | 12時間 | 2 |
| 日本非破壊検査協会 | 2013年06月03日～2013年06月21日 | 28時間 | 3 |
| | 年月日～年月日 | 時間 | |
| | 合計訓練時間 | 80時間 | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 訓練実施記録集計表有り | 添付書類合計枚数 | 4枚 | |
| | 訓練実施記録集計表がある場合はそれも含めた枚数 | | |

この例のように**同じレベルの訓練実施記録が2枚以上となっている場合**、訓練実施記録とは別に**訓練実施記録集計表**を添付する必要があります。
(□にチェックを入れてください。)

● 訓練実施記録集計表を利用する ●

同じレベルの訓練を、複数の訓練機関で受けるなど、訓練実施記録が2枚以上になった場合は、訓練実施記録の時間の集計を訓練実施記録集計表にまとめて受験申請書、訓練実施記録と共に提出してください。

赤外線サーモグラフィ試験 レベル2 訓練実施記録集計表

証明日： 2013年5月30日

| | | |
|---------------|---|--|
| NDT方法・レベル | TT-レベル2 | |
| 訓練を受けた者の氏名 | 非破壊 新太郎 | ・複数の訓練機関の訓練実施記録を提出する場合は、本書を併用してください。 |
| 訓練を受けた者の署名・押印 | 非破壊 新太郎  | ・本書を使用する場合は、訓練を受けた者の署名・押印欄、及び雇用責任者の証明欄への記載・署名・押印が必要です。 |

| 訓練内容 | 訓練内容題目 | 最低限必要な訓練時間 (h) | 訓練実施時間 (h) | 訓練機関名称 |
|--------------|--|----------------|-------------|-------------------------|
| 序論 | 非破壊検査一般 認証制度 | 1.0 | 4.0 | サーモグラフィ検査機関 赤外線検査訓練所 |
| 赤外線工学 | 伝熱工学の基礎 赤外線工学の基礎 | 3.0 | 3.0 | サーモグラフィ検査機関 |
| 赤外線サーモグラフィ装置 | 装置の仕組み センサ 走査方式 | 4.0 | 6.0 | サーモグラフィ検査機関 赤外線検査訓練所 |
| | 測定波長帯域 特殊波長帯域測定フィルタ 測定の補助機器 | 2.5 | 3.0 | 赤外線検査訓練所 |
| | 装置の選択 | 3.0 | 4.0 | 赤外線検査訓練所 |
| | 熱負荷装置の選択 | 2.0 | 6.0 | サーモグラフィ検査機関 赤外線検査訓練所 |
| きずの種類とその発生要因 | 電気・電子関連 機械設備関連 プラント設備関連 土木・建築関連 材料評価関連 | 4.0 | 5.0 | サーモグラフィ検査機関 赤外線検査訓練所 |
| | 測定方法の選択 | 2.5 | 4.0 | サーモグラフィ検査機関 赤外線検査訓練所 |
| | 測定の実施と評価 | 4.0 | 4.0 | サーモグラフィ検査機関 |
| | 非破壊検査に関する技術文書 | 4.0 | 4.0 | サーモグラフィ検査機関 |
| 実技 | 準備、試験、報告 | 20.0 | 22.0 | 赤外線検査訓練所 |
| | 各種試験 | 12.0 | 14.0 | 赤外線検査訓練所/サーモグラフィ検査機関 |
| 合計 | | | 81.0 | 時間 |

| | | | |
|------------|------------------------|---------|--|
| 訓練実施記録添付枚数 | ◆ 訓練時間・講義と実技の時間配分確認欄 ◆ | | |
| 2枚 | (時間) | (時間合計) | ※ 最低限必要な訓練時間を必ず満足させ、TT2受験に必要な訓練時間(80時間)を満たすようにしてください。 ※ 時間合計の欄に講義、実技の合計時間をまとめていただき、必要な訓練時間を満足しているか確認しましょう |
| | 最低限必要な講義時間 | 32~48時間 | 45.0 |
| | 最低限必要な実技時間 | 32~48時間 | 36.0 |
| | TT2受験に必要な訓練時間 | 80時間 | 81.0 |

| | |
|--|--|
| ◆ 雇用責任者証明欄 ◆ | |
| 雇用責任者名: 非破壊 三郎  | 所在地 〒101-0026 東京都千代田区神田佐久間河岸67 MBR99ビル |
| 勤務先名: (株)サーモグラフィ検査 | 電話番号 03-xxxx-xxxx |
| 所属: 検査管理課 | FAX番号 03-xxxx-xxxx |
| 役職: 代表取締役 | |

- ① 訓練を受けた者の自筆署名、押印をする。
- ② 2か所の訓練機関で受けた訓練時間の合計時間を入力
- ③ それぞれの訓練機関の名称を入力
- ④ 講義時間、実技時間の合計時間を入力し、訓練時間が満足しているか再度確認する
- ⑤ 雇用責任者の証明欄(勤務先等署名、押印)を記入
※雇用責任者とは、申請者が日常働いている組織体の責任者、又はその責任者により業務を委任されている代理者です。

●訓練A (訓練責任者を置いた場合) の作成例

※例：TTレベル2の訓練を受け、80時間以上の訓練実施記録の場合…※

最低限必要な訓練時間を満足するようにしてください。

赤外線サーモグラフィ試験 レベル2 訓練実施記録

1/1

| | | | | | | | |
|---------------|--|---------|--|---|--|--|--|
| NDT方法・レベル | | TT-レベル2 | | 証明日 | | | |
| 訓練を受けた者の氏名 | | 非破壊 新太郎 | | 2013年5月30日 | | | |
| 訓練を受けた者の署名・押印 | | 非破壊 新太郎 | | <small>←受験申請書へ添付する書類は、訓練実施記録の原本をコピーした後に、訓練を受けた者の署名欄(ボールペン等)、押印をしてください。(訓練記録は5年間で有効なため、複数回使用できます。)</small> | | | |

| 訓練内容 | 訓練内容題目 | 最低限必要な訓練時間(h) | 訓練実施時間(h) | 訓練実施日(西暦・月・日) | 訓練実施場所 | 訓練者 | | |
|---------------|----------------------------|---------------|-----------|---------------------|-------------|-----------|----|--------------|
| | | | | | | 氏名 | 押印 | 保有資格 認証番号 |
| 序論 | 非破壊検査一般 認証制度 | 1.0 | 2.0 | 2013/5/12 | サーモグラフィ検査機関 | 山下 亨 | | |
| 赤外線工学 | 伝熱工学の基礎 赤外線工学の基礎 | 3.0 | 3.0 | 2013/5/12 | サーモグラフィ検査機関 | 山下 亨 | | |
| 赤外線サーモグラフィ装置 | 装置の仕組み センサ | 4.0 | 5.0 | 2013/5/13 | サーモグラフィ検査機関 | 山下 亨 | | |
| | 走査方式 | | | | | | | |
| | 測定波長帯域 | | | | | | | |
| 装置の選択 | 特殊波長帯域測定フィルタ | 2.5 | 3.0 | 2013/5/13 | サーモグラフィ検査機関 | 山下 亨 | | |
| | 測定の補助機器 | 3.0 | 3.0 | 2013/5/14 | サーモグラフィ検査機関 | 斉藤 勝 | | |
| 熱負荷装置の選択 | 装置選択における注意点 | 2.0 | 2.0 | 2013/5/14 | サーモグラフィ検査機関 | 斉藤 勝 | | |
| | 接触による熱負荷 | | | | | | | |
| | 放射加熱 | | | | | | | |
| きずの種類とその発生要因 | 通電加熱装置 | 4.0 | 4.5 | 2013/5/14 | サーモグラフィ検査機関 | 斉藤 勝 | | |
| | その他の加熱装置 | | | | | | | |
| | 電気・電子関連 | | | | | | | |
| | 機械設備関連 | | | | | | | |
| 測定方法の選択 | プラント設備関連 | 2.5 | 4.0 | 2013/5/15 | サーモグラフィ検査機関 | 斉藤 勝 | | |
| | 土木・建築関連 | | | | | | | |
| | 材料評価関連 | | | | | | | |
| | 赤外線サーモグラフィ試験の特徴 | | | | | | | |
| 測定の実施と評価 | 断熱温度場検出に基づく方法 | 4.0 | 5.0 | 2013/5/15 | サーモグラフィ検査機関 | 斉藤 勝 | | |
| | その他の方法 | | | | | | | |
| | アクティブ法とパッシブ法 | | | | | | | |
| 非破壊検査に関する技術文書 | 定量的方法及び定量的方法 | 2.0 | 3.0 | 2013/5/15 | サーモグラフィ検査機関 | 斉藤 勝 | | |
| | 測定の実施と評価における 熱弾性応力測定の原理 | 4.0 | 6.0 | 2013/5/16 | サーモグラフィ検査機関 | 山下 亨 | | |
| 実技 | 技術文書の種類 記録と報告 | 4.0 | 6.0 | 2013/5/16 | サーモグラフィ検査機関 | 山下 亨 | | |
| | 用語 | | | | | | | |
| | 準備、試験、報告 | 20.0 | 22.0 | 2013/5/17~2013/5/19 | サーモグラフィ検査機関 | 山下 亨、斉藤 勝 | | |
| | 各種試験 | 12.0 | 18.0 | 2013/5/22~2013/5/30 | サーモグラフィ検査機関 | 山下 亨、斉藤 勝 | | |
| | 合計 | | 80.5 | 時間 | | | | |

| | | | |
|--------|---------------------------------------|--|--|
| 訓練機関名称 | サーモグラフィ検査機関 | | |
| 所在地 | 〒×××-×××× 東京都江東区有明1-× 江××××ビル7F | | |
| 訓練責任者 | 景山 洋二 | | |
| 役職 | ××××部 ××××課 ××××係 | | |
| 連絡先 | 電話番号 ××-××××-××××/FAX ××××××××-×××××× | | |

| | |
|------------|-------|
| 技の時間配分確認欄 | |
| 32.0 | |
| 32.0 | |
| 80.0 | |
| 講義と実技の時間配分 | |
| 講義 | 32~48 |
| 実技 | 32~48 |

実際に
行われた
訓練時間
を入力
してくだ
さい。

この訓練
において
全責任
をもつ
訓練責
任者を
置いた
場合、
この訓
練Aの
パター
ンにな
ります。

● 訓練B (訓練責任者を置かない場合) の作成例

※例：TTレベル2以上の有資格者(訓練者)が訓練をおこなった場合※

訓練者(TTレベル2以上の有資格者)の氏名、押印、保有資格、認証番号を記載する。

赤外線サーモグラフィ試験 レベル1 訓練実施記録

1/1

証明日
2013年5月28日

| | | | |
|---------------|---------|---|--|
| NDT方法・レベル | TT-レベル1 | | |
| 訓練を受けた者の氏名 | 非破壊 新太郎 | | |
| 訓練を受けた者の署名・押印 | 非破壊新太郎 | ←受験申請書へ添付する書類は、訓練実施記録の原本をコピーした後に、訓練を受けた者の署名欄へ自筆署名(ボールペン等)、押印をしてください。(訓練記録は5年間有効なため、複数回使用できます) | |

| 訓練内容 | 訓練内容題目 | 最低限必要な訓練時間(h) | 訓練実施時間(h) | 訓練実施日(西暦・月・日) | 訓練実施場所 | 訓練者 | | | |
|---------------|---|---------------|-----------|---------------------|--------|------|----|--------|-----------|
| | | | | | | 氏名 | 押印 | 保有資格 | 認証番号 |
| 序論 | 非破壊検査一般 認証制度 | 1.0 | 2.0 | 2013/5/1 | 赤外検査所 | 森山 明 | | TTレベル2 | N00000000 |
| 伝熱工学の基礎 | 熱、温度、エネルギー 伝熱の3形態 | 2.0 | 3.0 | 2013/5/1 | 赤外検査所 | 森山 明 | | TTレベル2 | N00000000 |
| 赤外線工学の基礎 | 赤外線一般知識 基礎となる物理法則 | 2.0 | 3.0 | 2013/5/1 | 赤外検査所 | 森山 明 | | TTレベル2 | N00000000 |
| 赤外線サーモグラフィ装置 | 装置の持つ基本的機能 画像処理 補助機器 | 2.0 | 2.0 | 2013/5/2 | 赤外検査所 | 森山 明 | | TTレベル2 | N00000000 |
| 熱負荷装置の種類 | 接触による熱負荷 放射加熱 通電加熱装置 その他の加熱装置 | 1.0 | 2.0 | 2013/5/2 | 赤外検査所 | 森山 明 | | TTレベル2 | N00000000 |
| きず(欠陥・異状)の種類 | 電気・電子関連 機械設備関連 プラント設備関連 土木・建築関連 材料評価関連 | 2.0 | 4.0 | 2013/5/2 | 赤外検査所 | 森山 明 | | TTレベル2 | N00000000 |
| 測定原理 | 赤外線サーモグラフィ試験の特徴 断熱温度場検出に基づく方法 その他の方法 アクティブ法とパッシブ法 定性的方法と定量的方法 | 2.0 | 3.0 | 2013/5/7 | 赤外検査所 | 森山 明 | | TTレベル2 | N00000000 |
| 測定の実施 | 試験環境 撮像方法 データ処理 | 2.5 | 3.0 | 2013/5/7 | 赤外検査所 | 森山 明 | | TTレベル2 | N00000000 |
| 非破壊検査に関する技術文書 | 技術文書の種類 記録と報告 用語 | 1.5 | 4.0 | 2013/5/7 | 赤外検査所 | 森山 明 | | TTレベル2 | N00000000 |
| 実技 | 準備、試験、報告 | 10.0 | 12.0 | 2013/5/10~2013/5/12 | 赤外検査所 | 森山 明 | | TTレベル2 | N00000000 |
| | 各種試験 | 6.0 | 6.0 | 2013/5/13~2013/5/14 | 赤外検査所 | 森山 明 | | TTレベル2 | N00000000 |
| | | 合計 | 44.0 | 時間 | | | | | |

| | |
|---------------------------------------|---------------|
| 講義と実技の時間配分確認欄 16.0 16.0 40.0 | 訓練機関名称 所在地 |
|---------------------------------------|---------------|

| | |
|---------------------------|--|
| 実際に行われた訓練時間を 入力してください。 | 訓練者の押印は必ず全ての訓練内容毎に押印 してください。押印が無い場合は、TT2の 有資格者であっても訓練実施記録は訓練Aの 記載方法で作成してください。 |
|---------------------------|--|

◆ 訓練時間を満たすために…よくある問い合わせ

| 質問事例 | 回 答 | 参 考 |
|--|--|--|
| <p>訓練シラバスのうち、ひとつの訓練シラバスの項目を受けていませんでした。他の訓練シラバス項目で訓練時間をおぎなう事は可能ですか？</p> | <p>訓練シラバスは必ずすべての項目を受けてください。「最低限必要な訓練時間」を必ず満足させ、受験資格として要求されている訓練時間を満たすようにしてください。</p> | <p>Page1/12 頁～Page2/12 頁 Step2 「訓練を受ける方法として次のパターンがあります。」 Step3 「レベルごとの「訓練シラバス」に基づいた訓練を受けてください」を参照</p> |
| <p>TTレベル2を直接受験したいのですが、TTレベル2の訓練シラバスを120時間分受ければいいのですか？</p> | <p>TTでは、各レベルに訓練シラバス、訓練時間が決められています。 TTレベル2は、TTレベル1に要求される訓練が終了していることが前提ですので、直接レベル2を受験する場合は、TTレベル1のシラバスにそった40時間の訓練実施記録と、TTレベル2のシラバスにそった80時間の、合計120時間分の訓練実施記録が必要です。</p> | <p>Page1/12 頁～2/12 頁 Step1 「新規受験申請の条件である必要な訓練時間を確認してください。」 Step2 「訓練を受ける方法として次のパターンがあります。」 Step3 「レベルごとの「訓練シラバス」に基づいた訓練を受けてください。」を参照</p> |
| <p>TTレベル2を受験するため、TTレベル1の訓練実施記録とTTレベル2の訓練実施記録2枚用意できました。複数枚あるということで訓練実施記録集計表を利用しないといけないのですか？</p> | <p>訓練実施記録集計表は、同じレベルの訓練を複数箇所の訓練団体からうけて、訓練実施記録が2枚以上になった場合に必要になります。</p> | <p>Page7/12 頁 「訓練実施記録集計表を利用する」を参照</p> |
| <p>その他団体の講習会に参加しました。JSNDI 指定の訓練実施記録様式とは違う証明書類をもらいましたが、この書類でも認められますか？</p> | <p>訓練実施記録は「JSNDI 認証事業本部指定」のものになります。 また、講習会のコースによっては、TT試験対策用ではないコースの可能性も考えられますので、必ず事前に主催団体にお問い合わせされる事をおすすめいたします。</p> | |

《 受験申請時の提出書類参考例 》

1か所の訓練機関で受けるなど訓練実施記録が1枚で訓練時間を満足する場合…(例:TTレベル1)

新規受験申請書(正・副)



40 時間分の(レベル1)訓練実施記録

※訓練実施記録が1枚ですむ場合は、**訓練実施記録集計表は不要です。**

複数の訓練機関で受けるなど訓練実施記録が2枚以上で訓練時間を満足する場合…(例:TTレベル2)

新規受験申請書(正・副)



24 時間分と 56 時間分の(レベル2)訓練実施記録が2枚



40 時間分の(レベル1)訓練実施記録

訓練実施記録集計表(レベル2)

※レベル2の分の訓練実施記録の時間の集計をまとめてください。

TTLレベル1(40時間分)の訓練実施記録と、TTLレベル2の訓練実施記録(80時間分)で訓練時間が満足する場合は、訓練実施記録集計表の提出は不要です。

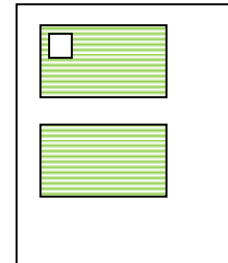
《 受験申請時の提出書類参考例：TTレベル1資格所有者の方 》

TTレベル2の訓練を1か所の訓練機関で受けるなど訓練実施記録が1枚で訓練時間を満足する場合

新規受験申請書(正・副)



80時間分の(レベル2)訓練実施記録



TTレベル1の資格証明書コピー(両面・白黒可)

※訓練実施記録が1枚ですむ場合は、**訓練実施記録集計表は不要です。**

TTレベル2の訓練を複数の訓練機関で受けるなど訓練実施記録が2枚以上で訓練時間を満足する場合

新規受験申請書(正・副)



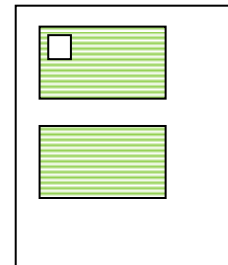
24時間分の(レベル2)訓練実施記録



56時間分の(レベル2)訓練実施記録



訓練実施記録集計表(レベル2)



TTレベル1の資格証明書コピー(両面・白黒可)

※訓練実施記録の時間の集計をまとめてください。